

第19回 資金運用計画の立て方

運用資金と適正な元金 = レバレッジコントロール

全ての投資・トレードにおいて資金運用を考えると、証拠金に着目するのは間違っている
 適正ポジションサイズ(丸代金)に着目すべき

証拠金100万円 でレバレッジ5倍のとき 500 万円の資金を持っているのに等しい \Rightarrow ただし、完璧なリスク管理ができている前提

2,500円の株を2,000株仕掛けるとする \Rightarrow 丸代金は500万円
 拘束される証拠金は500万円 \div 5=100万円だが、ここには着目しない
 \Rightarrow 丸代金500万円のトレードを行っている実感を強く持つことが重要

総資金(証拠金)が決まれば、最大のポジションサイズが決まる \Rightarrow 実際のポジションサイズが決まれば、実質レバレッジが決まる
 名目レバレッジ5倍 \leftrightarrow 実質レバレッジ0倍

ストップの設定とポジションサイズ

基本的な考え方(例) 1回のトレードの損失が、総資金(証拠金)の1%を超えないようにする

決定のステップ(例)

- (1) 証拠金100万円、名目レバレッジ5倍と仮定する
- (2) 総資金の1%は1万円
- (3) 損失1万円以内でロスカットする \rightarrow 利益確定は2万円以上を目標とする
- (4) 株式ロングショート(ロング5銘柄・ショート5銘柄)で各50万円、計500万円の仕掛けを行う \Rightarrow フルレバレッジ
- (5) 損益率▲1%でロスカットしたとする \rightarrow 片側250万円 \times 1%=2.5万円の損失
 \therefore 総資金の2.5%の損失 \Rightarrow 心理的に受け入れられればOK
- (6) 損失を総資金の1%以内に収めたい場合 \rightarrow ポジションサイズを40%にする
 各20万円、計200万円 \rightarrow 実質レバレッジは2倍
 $= 200$ 万円 \div 100万円

リターン期待値

1ショットのポジションサイズに対して年間30%程度が目標となる

上記例で、勝ち2万円、負け1万円であるとした場合

30%

- 200万円 \times 30%=60万円 \rightarrow 100万円の証拠金(実質レバレッジ2倍)に対して60%の利益率
- 勝率70%の場合 $30\% \div 0.55 \approx 55$ \Rightarrow 年間55回のトレードを行えば達成できる
- 勝率50%の場合 $30\% \div 0.25 \approx 120$ \Rightarrow 年間120回のトレードを行えば達成できる \rightarrow 困難

トレード1回平均の利益1.1万円
 利回り0.55%(片側1.10%)

トレード1回平均の利益0.5万円
 利回り0.25%(片側0.50%)

1トレードのリスク(ストップ)が、総資金(証拠金)の1%であるならば、レバレッジを掛けない現物株式投資よりもリスクは低く健全である。

利益の使い方・生かし方

単利運用 1年間(一定期間)において、1ショットのポジションサイズを変えない方法

複利運用 一定期間を経過し利益が積み上がったなら、再計算して1ショットのポジションサイズを大きくする方法

絶対的な破たんを避けるために

資金計画を明文化し、遵守すること \rightarrow 問題があれば見直し、再度明文化し、遵守すること

ロスカットルールを絶対を守る